



第28号
平成21年8月30日
編集・発行
日本杖道会

武道の心

神之田 常盛

古き時代より、いづれの国家社会にあつても体育が重視されてきたのは、社会国家の向上発展に不可欠の要素、すなわち健康なる身体と健全なる精神を育成するためである。

現在の我が国の精神文化とも言うか極めて混迷せる世相を見るに、これを打開するためには、一層の体育の拡充に力を傾倒しなければならぬ。特に武道は我が国に発祥した特有のものであつて心身の鍛錬に極めて優れた効果を有している。言うまでもなく日本武道は戦技として、殺傷の技術として発達してきたものであるが、次第に昇化され、人間修行の道として発展するに至つた。いわゆる敵を攻めるよりもむしろ己に克つ精神の修行に移行してきたものである。

日本武道は生死の境の中にあつて、真剣に行じてきた先達の集積、心の集積でありそれが基本となり、形となつて数百年來傳承されてきたものであつて、練りに練り、鍛えに鍛えられた伝統的文化遺産であり、日本古來の精髓でもある。

武は「ほこを止める」或は「正しく導く」という大いなる和の精神にあり、この精神は日本民族の倫理観、すなわち「人間の踏むべき正しい道を高める」武の威徳と和の心をもつて巍然一体をなしている。

物質文明と言われる現代社会を見るに、その形態は驚くべき発展を遂げ、更に限りない発展途上にある今日、両手を挙げてこれを賞賛し、評価すべきであらうか、否、一大波瀾の世の中、救い難い時代だと叫ばざるを得ない。

それは繁栄という美名に生ずる必然的歪みであるのか、又は人間教育に起因するものなのか。ともかく日本人としての心(特に歴史、道徳観、愛国心など人間社会にとつて最も重要な精神)の面が本来の人間社会から逸した感がある。我々の日常生活は正

しく、明るく、美しくありたい。人間形成に武道の及ぼす影響と言うものは極めて大きい一面を温存している。武道修行の目的の第一義は心の修行である。「行」をなすことによつて「礼、直、静、速」などの徳を体得する事ができる。これらは社会生活に欠く事のできない最も大切な事柄である。

技

私事で恐縮であるが、杖道の修行をしてこの道六十年、人生は一生修行であり限りあるものではないと思う。ご存知の通り杖道は形のみ演武であつて、この形を反復し、継続し、技の理を探究することによつて、次第に奥儀に達するものであり、なにごとの道においても技の上達は修行の期間或はその者の精進努力のいかんによつて決定づけられるものである。

どんな天才でも天才たる表面には血のみにじみ出るような稽古が繰り返されるものである。よく上達の秘訣について質問を受ける事があるが、別に秘密がある筈がない。技が上達する最大の要素は練習による汗の量だけが貴重な体験となり、進歩となりこれによつて強くもなり上達もすると言つても過言ではない。時間の許す限り、精力の続く限り真剣に稽古し、その練習量が蓄積されて始めて技が顕著に現れるのである。

体

道を求めて修行するには基礎となる体力が先決である。学問にしろスポーツにしろその他芸能などもしかりである。近年青少年の体位の向上には著しいものがあるが、体力の欠如が問題視されている。この原因は成育期における体育的要因によるものであり、これを解決するには成育期に符合した体育を重んじ体を鍛え、均衡のとれた体造りに専念しなければならない。

特に武道は攻撃、防御の際に相手の動きに対し千変万化する、体の運用変化が厳しいため体力の向上には計り知れないものがある。

「健全なる精神は健全なる身体に宿る」と言う言葉通り、たくましい体力が伴わなければ運用の転化として気魄、打突、気位、風格などが乏しく、日常生活にあつても真正面から突き当たつていく気力、何事にも動じない平常心、咄嗟の場合の微妙なる精神作用或は判断力、臨機応変の行動等が鈍感となりがちである。勿論、実戦の場合において不覚をとることは当然と言えよう。

修行の効果は一夜にして培われるものではなく、立派な社会人、調和のある人間性を築く上にたゆまざる修練の経過を必要とするものである。

武道修行の三要諦と言われる心、技、体の最も大切な事を述べ、八十路の坂道に向かつて一段と努力精進すると共に、残す人生を武道を通じて国家社会に貢献してまいりたい。

東京都杖道大会

平成21年7月18日、東京武道館で開催された第21回東京都杖道大会に出場した蔵脩館杖道会所属の選手が各段において優勝を飾った。

六段 松本 保典

五段 矢口真知子

五段 杉本 順子

近年において素晴らしい成績を納めたことについて、神之田常盛師範より昨年より掲げてきた「基本の徹底」が効果を上げているとお言葉を頂いた。



また、大会後に開催された杖道祭には神道夢想流杖道の部において、田内政行と海原要(表技)、佐藤暢と真野英明(中段)、山口満師範と阿部修師範(中段)阿部修師範と大里耕平師範(五本の乱)といった各演武が行われた。

一心流鎖鎌術免許を欲して

茨城支部 藤本 敏子

杖道と同時に鎖鎌を習い、二十数年過ぎ、鎖鎌術免許を頂けることになり、私をこの道に誘ってくれた小又勇氏と共に頂きました。

この二十数年間で、色々な行事に参加してとても貴重な経験が出来ました。その中で二回、アメリカに行けた事。

一回目の時に体育館いっぱい参加者の前で大声で号令をかけた事。アメリカの人達のミーティングに誘われ、その時は沖繩に在住していた女性が通訳してくれて、自己紹介の順番が迫りくる時のドキドキ感。我こそはアメリカの七人の侍なりと、名乗りをあげる面々、ほんとうに杖道が好きな人達との出会いです。

二回目には私も鎖鎌を披露出来て、少しはお役にたてたかなと……。

毎年恒例で行われている明治神宮、長野の浪合神社、筑波山神社での奉納演武、鹿島合宿の参加で積み重ねて得た体験は、何よりも勝る私の宝物です。免許を頂いてこれを糧にさらに精進して参ります。

諸先生方の益々のご指導よろしくお願い申し上げます。

